

平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

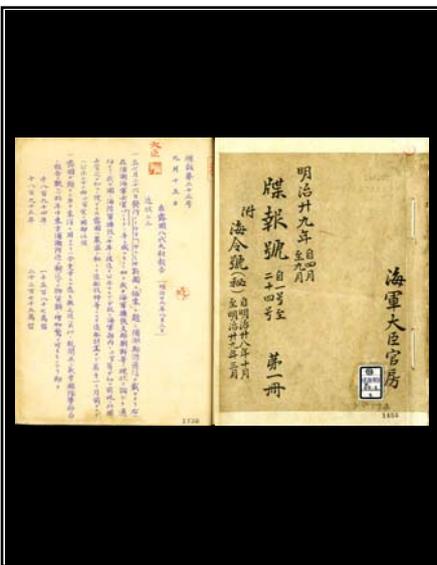
《 やしろ ろくろう 八代 六郎 1860～1930年 》

— 広瀬武夫、秋山真之と交流し数々の要職を歴任した海軍の逸材 —



兵術要論（登録番号：海軍省⑦—教範—338）

八代六郎大将（海兵 8 期）は、常備艦隊参謀、第 1・第 2 艦隊司令官、海軍大学校長、舞鶴・佐世保鎮守府長官、海軍大臣等を歴任しました。この史料は、同大将（当時大佐）が明治 34 年 10 月から明治 36 年 7 月の間、海軍大学校に選科学生として入校した際、戦略戦術を学ぶにあたってスイスの兵学家ジョミニの著書を自ら翻訳した「兵術要論」です。本書の緒言には「海軍大学校教官秋山少佐ニ恩借シ之ヲ覧ルコトヲ得、精読飽カズ終ニ之ヲ譯スルニ至レリ」と秋山真之少佐（後の連合艦隊参謀）から借用して翻訳に至った経緯が述べられています。本書は同校の講究録附録として印刷され講究の資とされました。



在露國八代大尉報告

（登録番号：海軍省⑩—牒雜報号—M29—1—5）

八代大将は明治 28 年 12 月から明治 32 年 7 月までの間、ロシア公使館付武官として勤務しました。この史料は明治 29 年 8 月、同大将（当時大尉）がロシアの現状について報告した「在露國八代大尉報告」です。同報告にはロシアの一海軍士官が書いた日本海軍の拡張等に関する新聞記事を例に「我力國ノ海陸軍擴張八十年ノ後迄モ公示セラル、ガ故ニ海軍部内ノ小官等ガ知ル前既ニ外國士官之ヲ知ルノ便アレトモ露國ハ嚴密ニ秘シテ造船技師等ニスラ造船計画ナド着手一ヶ月前ナラデハ公示セザル由小官実ニ困却仕候」と述べられており、当時のロシア国内における軍機保護の状況がよくわかります。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。  
防衛研究所企画室  
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp  
※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>